

経済的中枢管理機能からみたナイジェリアの都市体系（1995 - 2005）

阿部 和俊*

はじめに

本稿では1995年と2005年におけるナイジェリアの主要都市における経済的中枢管理機能の諸状況を提示し、この機能からみたナイジェリアの主要都市の位置づけを行い、都市間比較、都市間結合を分析することによってナイジェリアの都市体系を検討する。

この2年次のナイジェリアの主要企業の状況を掲載した資料としては管見する限り、『NIGERIA'S TOP 500 COMPANIES』（Goldstar Publications 刊）が最適である。しかし、この資料は金融関係については掲載が不十分な場合があるので、『The Bankers' Almanac』（Reed Information Service 刊）によって補足している。

筆者がこれまで行ってきた研究と同様、主要企業の本社と支所を経済的中枢管理機能とみなす。ここでは上記の『NIGERIA'S TOP 500 COMPANIES』掲載の全企業のそれをこれに該当するものとみなす。

人口からみたナイジェリアの主要都市

具体的な分析に入る前に人口面からナイジェリアの地域と都市について検討しておこう。経済的中枢管理機能のデータと人口のデータの年次は一致しないが、近い年次のデータで検討する。

ナイジェリアの政体は連邦共和制であり、2006年で36の州がある。1995年では30州であった。首

表1 - 1 州別人口（1991年）

州	人口(千人)	比率
1 Lagos	5,686	(6.4)
2 Kano	5,632	(6.4)
3 Sokoto	4,392	(5.0)
4 Bauchi	4,294	(4.9)
5 Rivers	3,984	(4.5)
6 Kaduna	3,969	(4.5)
7 Ondo	3,884	(4.4)
8 Katsina	3,878	(4.4)
9 Oyo	3,489	(3.9)
10 Plateau	3,284	(3.7)
11 Enugu	3,161	(3.6)
12 Jigawa	2,830	(3.2)
13 Benue	2,780	(3.1)
14 Anambra	2,768	(3.1)
15 Borno	2,597	(2.9)
16 Delta	2,570	(2.9)
17 Imo	2,485	(2.8)
18 Niger	2,482	(2.8)
19 Akwa Ibom	2,360	(2.7)
20 Ogun	2,339	(2.6)
21 Abia	2,298	(2.6)
22 Osun	2,203	(2.5)
23 Edo	2,160	(2.4)
24 Adamawa	2,124	(2.4)
25 Kogi	2,099	(2.4)
26 Kebbi	2,062	(2.3)
27 Cross River	1,866	(2.1)
28 Kwara	1,566	(1.8)
29 Taraba	1,481	(1.7)
30 Yobe	1,411	(1.6)
31 Abuja	379	(0.4)
全国	88,513	(100.0)

資料：Annual Abstract of Statistics (1996 Edition)

都のAbujaは特別地区である。表1 - 1、1 - 2は両年の州別人口である。ナイジェリアの総人口は1995年の8,800万人強から2006年には14,300万人強に増加した。最も人口の多い州は1991年ではLagosだったが、2006年ではKanoで9,384千人であり総人口の6.6%である。最少は両年次ともAbujaであるが、この11年で100万人強増え、

* 愛知教育大学地域社会システム講座

表1 - 2 州別人口 (2006年)

州	人口(千人)	比率
1 Kano	9,384	(6.6)
2 Lagos	9,014	(6.3)
3 Sokoto	6,697	(4.7)
4 Kaduna	6,067	(4.2)
5 Katsina	5,793	(4.0)
6 Oyo	5,592	(3.9)
7 Rivers	5,185	(3.6)
8 Bauchi	4,676	(3.3)
9 Jigawa	4,349	(3.0)
10 Benue	4,219	(2.9)
11 Anambra	4,182	(2.9)
12 Borno	4,151	(2.9)
13 Delta	4,098	(2.9)
14 Niger	3,950	(2.8)
15 Imo	3,935	(2.8)
16 Akwa Ibom	3,920	(2.7)
17 Ogun	3,728	(2.6)
18 Ondo	3,441	(2.4)
19 Osun	3,424	(2.4)
20 Kogi	3,278	(2.3)
21 Zamfara	3,260	(2.3)
22 Enugu	3,257	(2.3)
23 Kebbi	3,239	(2.3)
24 Edo	3,218	(2.3)
25 Ekiti	3,179	(2.2)
26 Adamawa	3,168	(2.2)
27 Cross River	2,889	(2.0)
28 Abia	2,834	(2.0)
29 Kward	2,384	(1.7)
30 Gombe	2,371	(1.7)
31 Kwara	2,354	(1.6)
32 Yobe	2,322	(1.6)
33 Taraba	2,301	(1.6)
34 Ebonyi	2,174	(1.5)
35 Nassarawa	1,863	(1.3)
36 Bayelsa	1,703	(1.2)
37 Abuja	1,405	(1.0)
全国	143,004	(100.0)

資料 : Africa South of the Sahara 2008
(37th Edition)

2006年には140万人強となり、比率も0.4%から1.0%に上昇した。Abujaは特別区(首都)なので、州としては1995年ではYobe, 2006年ではBayelsaが最少人口で州別の人口分布は比較的均等である。

表2 - 1, 2 - 2は両年次の主要都市の人口を示したものである。両年次とも最も人口の多い都市はラゴスである。統計の単位が同じではないため安易な比較はできないが、ラゴスをはじめとして上位都市の人口増加は大変に大きい。州別の人口は

表2 - 1 主要都市と主要LGAの人口 (1995年)

都市名	人口(千人)	Lagosの人口を 100.0とする
Lagos	5,261	(100.0)
Ibadan	1,223	(23.2)
Oredo	781	(14.8)
Maiduguri	629	(12.0)
Jos	623	(11.8)
Ilorin	572	(10.9)
Dala	496	(9.4)
Aba	494	(9.4)
Enugu	465	(8.8)
Nassarawa	464	(8.8)
Port - Harcourt	440	(8.4)
Kano	404	(7.6)
Idemili	401	(7.6)
Abuja	379	(7.2)
Abeokuta	375	(7.1)
Tudunwada/Makera	374	(7.1)
Ikara	344	(6.5)
Bauchi	342	(6.5)
Lafia	341	(6.5)
Daura	340	(6.5)
Kaduna	338	(6.4)
Obioma-Ngwa	325	(6.2)
Calabar Municipality	321	(6.1)
Akure	317	(6.0)
Malumfashi	313	(5.9)
Bali	313	(5.9)
Okene	309	(5.9)
Katsina	306	(5.8)

Abujaの人口はAbuja F.C.T (Federal Capital Territory)
Lagos市の人口はAgege, Mainland, Island, Shomolu, Mushin, Etiosa, Ikeja, Ojo LGA人口の合計
Ibadan市の人口はIbadan北西・同北東・同南東・同南西・同北 LGA人口の合計

資料 : Annual Abstract of Statistics (1996 Edition)
(Federal Office of Statistics 発行)

表2 - 2 主要都市の人口 (2005年)

都市名	人口(千人)	Lagosの人口を 100.0とする
Lagos	10,866	(100.0)
Kano	2,993	(27.5)
Ibadan	2,437	(22.4)
Zaria	1,405	(12.9)
Abuja	1,375	(12.7)
Kaduna	1,055	(9.7)
Benin City	972	(8.9)
Port Harcourt	941	(8.7)
Ogbomosho	854	(7.9)
Maiduguri	847	(7.8)

資料 : Africa South of the Sahara 2008 (37th Edition)

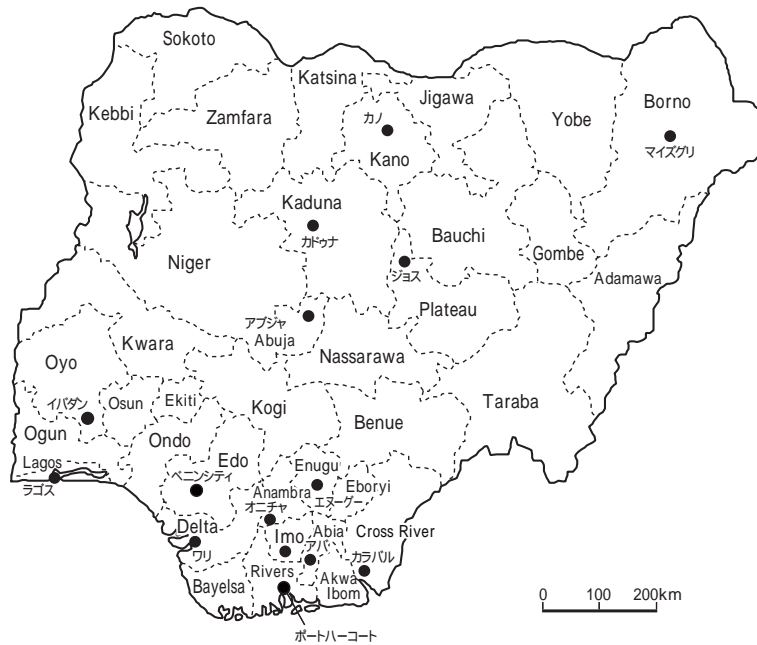


図1 研究対象都市

州名についてはアルファベットで表記 都市名についてはカタカナで表記

比較的均等に分布しているが、都市単位で見ると差は極めて大きいといえよう。図1は本論で取り上げる都市を示したものである。

主要都市における経済的中枢管理機能の諸相

1. 対象企業の概要

最初に対象企業500社の業種構成についてふれておこう。この資料においては掲載企業はアルファベット順に記載されており、業種はBusinessとしてその内容が記述されている。

表3は、筆者がこれまでの研究において用いた分類を基準に、対象企業の業種構成を示したものである¹⁾。対象企業中最も多い業種は両年次とも金融すなわち銀行である。1995年では85社(17.0%)であったが、2005年では76社(15.2%)である。1995年では鉄鋼諸機械がこれに続き48社(9.6%)であった。3番目は化学と保険が43社(8.6%)であった。2005年でも金融(76社15.2%)

表3 対象企業の業種構成

	1995	2005
水産・農林	6 (1.2)	3 (0.6)
鉱業	12 (2.4)	20 (4.0)
建設	27 (5.4)	30 (6.0)
食料品	30 (6.0)	28 (5.6)
繊維	21 (4.2)	9 (1.8)
パルプ・紙	9 (1.8)	6 (1.2)
化学	43 (8.6)	23 (4.6)
ゴム・窯業	13 (2.6)	8 (1.6)
鉄鋼諸機械	48 (9.6)	34 (6.8)
その他製造業	35 (7.0)	34 (6.8)
商業	19 (3.8)	35 (7.0)
金融	85 (17.0)	76 (15.2)
証券	5 (1.0)	0 (0.0)
保険	43 (8.6)	40 (8.0)
不動産	1 (0.2)	5 (1.0)
運輸・情報・通信	17 (3.4)	31 (6.2)
電力・ガス	1 (0.2)	2 (0.4)
サービス	32 (6.4)	73 (14.6)
その他・分類不能	8 (1.6)	9 (1.8)
ホールディング	44 (8.8)	32 (6.4)
不明	1 (0.2)	2 (0.4)
計	500 (100.0)	500 (100.0)

資料：『NIGERI'S TOP 500 COMPANIES』

表4-1 主要都市の本社数と支所数(1995年)

都市	本社	支所	ラゴスの支所数を100.0とする
1 ラゴス	379	173	100.0
2 ポートハーコート	7	112	64.7
3 カノ	12	106	61.3
4 カドゥナ	13	82	47.4
5 アブジャ	7	70	40.5
6 イバダン	14	66	38.2
7 ワリ	2	54	31.2
8 ジョス	5	44	25.4
9 アバ	4	40	23.1
10 オニチャ	4	34	19.7
エヌーゲー	5	34	19.7
ベニンシティ	3	34	19.7
13 イロリン	1	22	12.7
14 マイズグリ	0	21	12.1
オウエリ	5	21	12.1
16 ソコト	2	18	10.4
アクレ	0	18	10.4
18 カラバル	1	17	9.8
19 ウヨ	1	10	5.8
20 バウチ	3	9	5.2
ザリア	0	9	5.2
オタ	5	9	5.2

が最も多いものの、サービスが急増し73社、14.6%である。保険は少し減少し、40社(8.0%)である。「食料品」「繊維」「ゴム・窯業」「鉄鋼諸機械」「その他製造業」を製造業として合計すると1995年では、199社(39.8%)であったが、2005年では、それは142社(28.4%)である。非製造業(その他・分類不能、ホールディング、不明を除く)は1995年では248社(49.6%)、2005年では315社(63.0%)である。主要企業の第3次産業化が進んだといえよう。

2. 都市別本社の状況

表4-1、4-2は両年次の主要都市の本社数と支所数を示したものである。両年次とも本社数最多都市はラゴスであり、1995年では379(75.8%)、2005年では390(78.0%)である。本社数の多いラゴスは業種も豊富であるが、とくに金融、サー

表4-2 主要都市の本社数と支所数(2005年)

都市	本社	支所	アブジャの支所数を100.0とする
1 アブジャ	27	207	100.0
2 ラゴス	390	187	90.3
3 ポートハーコート	13	169	81.6
4 カノ	12	119	57.5
5 カドゥナ	11	93	44.9
6 イバダン	13	72	34.8
7 ワリ	2	70	33.8
8 オニチャ	1	45	21.7
エヌーゲー	2	45	21.7
10 ジョス	2	44	21.3
11 ベニンシティ	2	41	19.8
12 アバ	3	40	19.3
13 マイズグリ	0	35	16.9
14 オウエリ	1	26	12.6
カラバル	1	26	12.6

表5-1 主要都市の本社数とその業種構成(2005年)

都市 \ 業種	ラゴス	アブジャ	ポートハーコート	イバダン	カノ	カドゥナ	その他
水産・農林	1						2
鉱業	12		4			1	2
建設	19	8	2	1			
食料品	20			1	3		4
繊維	5				2	1	1
パルプ・紙	4						2
化学	19		1		1		2
ゴム・窯業	4		1				3
鉄鋼諸機械	28		1			1	4
その他製造業	22	1	1	6	2		2
商業	32	1				1	1
金融	63	5		1		4	3
証券							
保険	35	2		1	1	1	
不動産	5						
運輸・情報・通信	23	5	1			1	1
電力・ガス	1	1					
サービス	65	3	2		1	1	1
その他・分類不能	6						3
ホールディング	25			3	2		2
不明	1						1
計	390	27	13	13	12	11	34

表5-2 主要都市の本社数とその業種構成（1995年）

都市 業種	ラ ゴ ス	イ バ ダ ン	カ ド ウ ナ	カ ノ	ア ブ ジ ャ	ポ ー ト ハ ー コ ー ト	エ ヌ ー グ ー	ジ ョ ス	オ ウ エ リ	オ タ	オ ニ チ ャ	ア バ	そ の 他
農林・水産	3												3
鉱業	10							1					1
建設	24				1	1							1
食料品	19	1		3		1		1		1	1		3
繊維	16		2								1	1	1
紙・パルプ	6											1	2
化学	33	2	1			1			1				5
ゴム・窯業	4					1	1						7
鉄鋼諸機械	29	3	2	1		1	1	1	1				9
その他製造業	23	4	1	1	1				1	2		1	1
商業	18									1			
金融	68	2	3	3		1	1	1	1				5
証券	5												
保険	37	1	1	1	1		1		1				
不動産	1												
運輸・通信	14				2								1
電力・ガス	1												
サービス	29		1		1	1							
その他・分類不能	5	1	1		1								
ホールディング	33		1	3				1	1	1	2	1	1
不明	1												
計	379	14	13	12	7	7	5	5	5	5	4	4	40

ビスの本社が多い。製造業と非製造業とに分けると、1995年では、前者が130（26.0%）、後者が331（66.2%）、2005年では、前者が102（20.4%）、後者が366（73.2%）である。いずれも全体より非製造業企業の率が高い（表5-1、5-2）。

ラゴスは人口のみならず大企業本社数においてもナイジェリア1の都市である。ラゴスはナイジェリアの南西部、ギニア湾に面した歴史の古い都市である²⁾。1991年12月にアブジャが首都になるまで同国の首都であった。ラゴス島の南部が業務中心地区ならびに官庁街区となっているが、先の390社が必ずしもこの地区に集中しているというわけではない。ラゴス・ラグーンをこえて広がっ

た工業地区や空港の周辺にも多数の本社が立地している。しかし、ここでは、本社機能の都市内立地は検討しない。

都市別本社数では、この10年間に大きな変化があった。それはアブジャの本社数の増加である。カノ・カドゥナ・イバダンなどの本社数があまり変化のないことと比べるとアブジャの本社数の増加は著しい。業種では、建設、金融、運輸・情報・通信で増加した。上述のようにアブジャは1991年から首都となるが、このことが関係しているものと推測される。それは次に検討する支所の状況において、より顕著である。

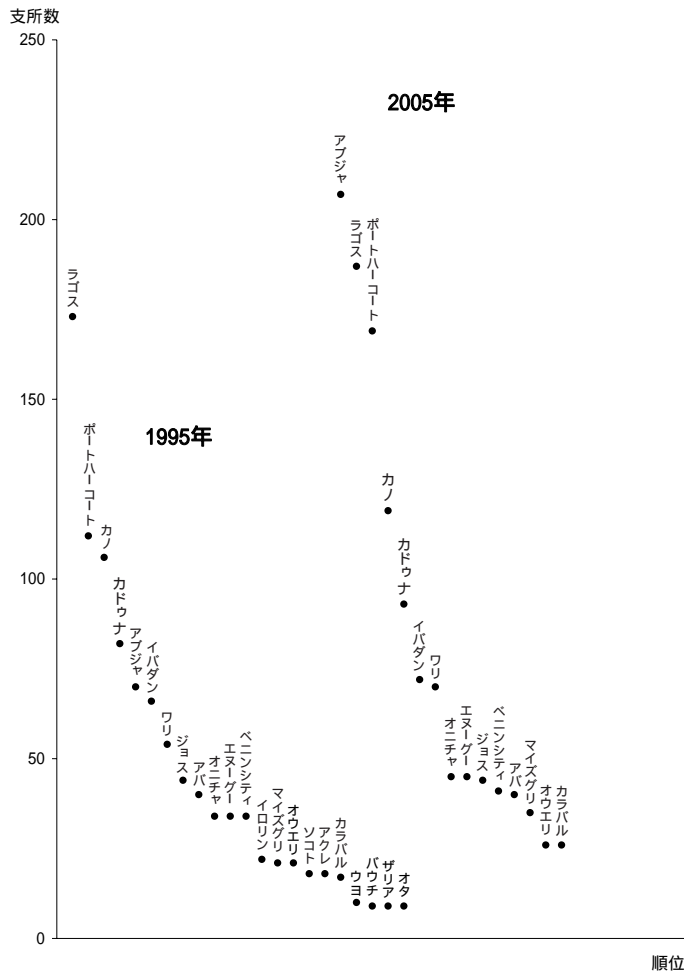


図2 支所数によるナイジェリアの都市の順位規模曲線

3. 都市別支所の状況

続いて支所の状況をみていこう(表4-1A-2)。1企業1都市1支所が集計の原則である。1995年のラゴスの173というのは、この年の対象企業500社のうち173社がラゴスに支所を置いているということの意味している。

全体的に主要都市の支所数は増加しており、全体として企業活動は活発になったと評価できる。そのことは支所数1位の都市に対する各都市の支所数比の上昇によっても明らかである。

しかし、何よりもアブジャの支所数の増加が著

しい。アブジャの支所数は1995年では70であったが、2005年では207になり、第1位の都市になった。

アブジャは首都である。ラゴスはアブジャに首都が移るまでの首都であり、植民地時代から今日に至るまでの経済活動の中心である。カノとカドゥナは北部の都市である(図1)。

『NIGERIA'S TOP 500 COMPANIES』の2005年版では支所のレベル、つまり格付けが明示されている企業がある。それによって一般的な支所といわば地域レベルともいえる上位支所とを区分できる。上位支所を多く配置されている都市は上位

表6-1 主要都市の支所数とその業種構成（1995年）

都市 業種	ラ ゴ ス	ポ ー ト ハ ー コ ー ト	カ ノ	カ ド ウ ナ	ア ブ ジ ヤ	イ バ ダ ン	ワ リ	ジ ョ ス	ア バ	オ ニ チ ヤ	エ ヌ ー グ ー	ベ ニ ン シ テ イ
農林・水産	2		1									
鉱業	2	6			2		4					1
建設	6	9	4	5	7	3	6				3	1
食料品	14	3	3	4		4		3	6	2	1	4
繊維	4		2			1				1		
紙・パルプ	3		3	1		2			2	1		
化学	17	6	13	8	4	11	4	7	7	2	4	4
ゴム・窯業	6		3	2	2			1	1	2	1	1
鉄鋼諸機械	18	6	5	8	7	3	1	1	4	1	2	
その他製造業	12	3	7	4	3	5	1	9	3	3	1	5
商業	7	7	6	4	2	4	3	2	1	15	1	3
金融	35	25	27	19	23	15	8	9	12		8	6
証券										5		
保険	19	20	16	15	11	13	10	9	4		9	6
不動産		1	1	1	1							
運輸・通信	8	7	3	3	2		5				1	
電力・ガス												
サービス	5	12	3	4	1	2	8	2		2	2	1
分類不能	13	5	7	4	5	3	3	1			1	2
その他・製造業	2	2	2				1					
計	173	112	106	82	70	66	54	44	40	34	34	34
製 造 業	74	18	36	27	16	26	6	21	23	12	9	14
製造業支所率	42.8	16.1	34.0	32.9	22.9	39.4	9.3	47.7	57.5	35.3	26.3	41.1

都市として評価されていることになる。

今、その状況を述べると、ラゴスとアブジャの上位支所が31と30で断然多い。ポートハーコートは支所数3位であるが、このレベルの支所は7しかなく、9のカノよりも少ない。この上位レベルの支所が多いのは上位6都市であるが、大企業によってラゴスとアブジャが他の4都市より重要視されていることは明らかである。

図2は両年次の支所数による都市の順位規模曲線である。1995年と比べると2005年では都市間に階層性を指摘できそうでもあるが、その評価は難しい。2005年のグラフをみるとワリとオニチャ以下の都市には格差があり、支所数からみると、ワ

リ以上の上位都市とオニチャ以下の下位都市に二分することもできる。これは1995年のときより上位都市と下位都市が明確に分けられるようになったとも評価できる。

次に支所数上位都市の支所の業種構成についてみてみよう（表6-1、6-2）。支所数の多い都市ほど業種は豊富であるが、いずれの都市においても「金融」「保険」が上位業種である。それは対象企業中、この2業種が多いことと、元来「金融」「保険」は広く支所を配置する業種であることにもよる。

大きく製造業と非製造業とに分けてみると都市間の差異は大きい。1995年のラゴスでは製造業が

表6-2 主要都市の支所数とその業種構成（2005年）

都市 業種	ア ブ ジ ャ	ラ ゴ ス	ポ ー ト ハ ー コ ー ト	カ ノ	カ ド ウ ナ	イ バ ダ ン	ワ リ	オ ニ チ ャ	エ ヌ ー ゲ ー	ジ ョ ス	ベ ニ ン シ テ ィ	ア バ	マ イ ズ グ リ	オ ウ エ リ	カ ラ バ ル
水産・農林		1									1				
鉱業	10	11	11	4	4	1	4	1	2	2	2			1	
建設	9	8	8	1	4	3	5		4	2	2		1		1
食品	4	14	3	3	3	4	2	2	1	4	2	6	2		1
繊維	1	3	1	3				1							
パルプ・紙		2		1	1	1								1	
化学		3		4		1		1				4			
ゴム・窯業	4	3		2	2				1				1		
鉄鋼諸機械	14	11	12	6	8	4	4	2	4	2	2	4	1	1	1
その他製造業	13	14	2	4	6	4	3	4	3	6	5	4	2	6	
商業	21	15	19	17	6	3	3	4		1	2	1	2		
金融	39	31	33	27	22	17	13	20	10	9	7	15	13	10	11
証券															
保険	30	21	27	19	16	18	12	5	6	9	9	1	4	3	2
不動産	5	2	5	5	5	4	1	1	1	2	1		1		2
運輸・情報・通信	13	13	13	5	5	3	5		5		1		2	1	2
電力・ガス	1	1	1	1	1	1			1	1	1				
サービス	33	18	29	11	7	3	17	2	5	3	3	1	4	2	5
その他・分類不能	2	4	1	2	1	1		1	1		1	1			
ホールディング	8	12	4	4	2	4	1	1	2	4	2	3	2	1	1
不明															
計	207	187	169	119	93	72	70	45	45	44	41	40	35	26	26
製造業	36	50	18	23	20	14	9	10	8	13	9	18	6	8	2
製造業支所率	17.4	26.7	10.7	38.7	21.5	19.4	12.9	22.2	17.8	29.5	22.0	45.0	17.1	30.8	7.7

支所数全体の42.8%であるのに対して、ポートハーコートは16.1%でしかない。ポートハーコートは「建設」と「サービス」の支所が多く、製造業の比率はきわめて低い。

ラゴス以外ではイバダン、ジョス、アバ、ベニンシティにおいて製造業の比率が高い。しかし、余り支所数の多くない都市について比率の大小で論じることは問題があると思われる。

2005年について、大きく製造業と非製造業とに分けて、アブジャからワリまでの7都市の支所をみると、アブジャの製造業支所数比は17.4%しかないが、ラゴスは1995年に比べて低下したとはいえ、その比率は26.7%である。カノが最も高く38.7%である。カドゥナも21.5%であり、北部の2都市は製造業支所の比率が高くなっている。オ

ニチャ以下の都市ではカラバルを除いて、製造業支所比率の高い都市が多いが、余り支所数の多くない都市について比率を過度に評価することも適切なことではない。

4. 支所配置からみた都市間結合

続いて支所配置からみた都市間結合を検討してみよう。表7-1は1995年の本社数5以上の都市に本社を置く企業が各都市に支所を配置している状況を示したものである。ナイジェリアではラゴスへの本社集中が著しいため、支所配置からみた都市間結合といっても、それは圧倒的にラゴスを中心としたものである。

上位都市の支所の本社所在地を見ると、ラゴス本社企業の支所比率はワリの96.3%（54支所中52支所）を最高に、最低のジョスでも75.0%（44

表7-1 主要都市の本社から各主要都市への支所配置数とその比率（1995年）

from 都市	本社数	to											
		ラ ゴ ス	ポ ー ト ハ ー コ ー ト	カ ノ	カ ド ウ ナ	ア ブ ジ ャ	イ バ ダ ン	ワ リ	ジ ョ ス	ア ダ マ ス	オ ウ エ リ	エ ヌ グ ー	ベ ニ ン シ テ イ
ラゴス	379 (100.0)	83 (21.9)	101 (26.6)	87 (23.0)	67 (17.7)	56 (14.8)	59 (15.3)	52 (13.7)	33 (8.7)	35 (9.2)	25 (6.6)	28 (7.4)	28 (7.4)
イバダン	14 (100.0)	11 (21.9)	1	2	2				2			1	3 (21.7)
カドゥナ	13 (100.0)	10 (78.6)	1	2	3 (23.1)	3 (23.1)	1	1	1			1	1
カノ	12 (100.0)	8 (66.7)	3 (25.0)	1	1	1	2		1	1	1	1	
アブジャ	7 (100.0)	5 (71.4)	1	1	1		1		1				
ポートハーコート	7 (100.0)	5 (71.4)		1	1	2	1	1				1	
エヌグー	5 (100.0)	4 (80.0)		1								1	
ジョス	5 (100.0)	5 (100.0)		1									
オウエリ	5 (100.0)	4 (80.0)							2				
オタ	5 (100.0)	3 (80.0)					1		1	1			1

()の数字は各都市の本社数を100.0としている。配置支所数2以下については比率を記入していない。

支所中33支所）である（表7-1には、この比率は掲載していない）。各都市の支所の本社所在地は圧倒的にラゴスである。これは全業種の場合であるが、「金融」の支所を除いた場合も、比率はほとんど変わらない。また、上位12都市中4都市（カノ、カドゥナ、アブジャ、ジョス）が北部の都市であるが、ジョス以外はその比率は80%をこえており、ラゴス本社企業の支所配置にはとくに地域差もみられない。

一方、首都アブジャに対して支所を配置している企業をもつ都市は多くはない。例えばイバダン

本社企業はアブジャに1つも支所を置いていない。

ラゴス企業の支所配置はポートハーコートが最多であり、以下、各都市の支所数はラゴス企業の支所の多少に大体対応している。ラゴスには「金融」「保険」の本社が多いため、各都市への支所配置もこの両業種が多いものとなっている。ポートハーコートには「金融」の支所が19、「保険」の支所が18であり、以下同じく、カノには23, 14, カドゥナには14, 13, アブジャには18, 9, イバダンには13, 13, ワリには7, 10, ジョスには6,

8, アバには10, 3, オニチャには12, 4, エヌーグーには7, 8, ベニンシティには5, 5である。しかし反対に支所数の多い都市ほど, この2業種以外の業種が多いこともわかる。

イバダン以下の都市の企業はラゴスへの支所配置だけは高率である。表7-1の支所配置の状況は全業種を一括したものであるため, 業種について少し言及しておく, イバダン本社企業の支所配置のうち, ラゴス, ポートハーコート, カノ, カドゥナ, ベニンシティに対しては「保険」の支所が1つずつ配置されている。

カドゥナとカノ本社企業の場合は, 前者のポートハーコート, カドゥナ, イバダン, ワリ, ジョス, エヌーグー, ベニンシティの支所はすべて「金融」であり, 後者のカノ, カドゥナ, アブジャ, ジョス, アバ, エヌーグーの支所もすべて「金融」である。

ジョス本社企業もカノ, ジョス, オニチャの支所は「金融」であり, オウエリ本社企業のポートハーコート, カノ, カドゥナ, アバ, オニチャの支所は「保険」である。

以上のことから, ラゴス以外の都市に本社を置く企業の支所配置は「金融」と「保険」によるところが大きいことがわかる。

ラゴスからの支所配置率は対ポートハーコートが最高であるが, それでも101(26.6%)でしかない。「金融」と「保険」を除くとラゴス本社企業は274であるが, その場合の各都市への支所配置率をみるとポートハーコート23.4%, カノ18.2%, カドゥナ14.6%, アブジャ10.6%というように全業種の場合より3~4ポイント低下する。

ラゴス以外の都市に本社をおく企業の支所配置は部分的に言及したように, ラゴスには支所を置くが, その他の都市に対しては少なく, それも業種的には「金融」と「保険」に限られている。

一方, ラゴスの173支所のうちラゴス本社

の支所は83を数え, 比率にすれば48.0%である。つまり, 半分近くがラゴス本社企業の支所である。ラゴス以外の都市に本社を置く企業(121社)は90社がラゴス支所をもっている。ラゴス本社企業379社のうち296社がラゴスには支所をもたず, ラゴス以外の都市に本社を置く企業(121社)のうち, 31社のみがラゴスに支所をもっていないことになる。

図3と図4は1995年のラゴス本社企業の主要都市への支所配置と主要都市本社企業のラゴスへの支所配置を示したものである。また, 図5は1995年のラゴスを除く都市間の配置を示したものである。上述のように業種によって支所配置には差異があるが, これらの図はそれを捨象し一括して示している。ラゴス企業の支所配置が主要都市に広く展開されていることと同時に, ラゴスを除いた, いわば横の都市間結合は弱いことがわかる。

同じく2005年の都市間結合を検討しよう。表7-2は本社数11以上の都市に本社を置く企業が支所数多数都市(26以上)に支所を配置している状況を示したものである。ナイジェリアではラゴスへの本社集中が著しいため, 支所配置からみた都市間結合といっても, それは圧倒的にラゴスを中心としたものである。

オニチャ以下カラバルまでの8都市の支所に占めるラゴス本社企業の比率は, オニチャ82.2%, エヌーグー66.7%, ジョス75.0%, ベニンシティ70.7%, アバ85.0%, マイズグリ74.3%, オウエリ80.8%, カラバル84.6%である。一方, それはアブジャでは81.2%, ポートハーコートでは88.8%, カノでは79.8%, カドゥナでも71.0%を占める。ポートハーコート, イバダン, カノ, カドゥナ本社企業はアブジャよりもラゴスの方への支所配置が多い。「金融」「保険」「サービス」はいずれも多く支所を配置する業種であるが, これら4都市はこの3業種の本社が多くはない(表

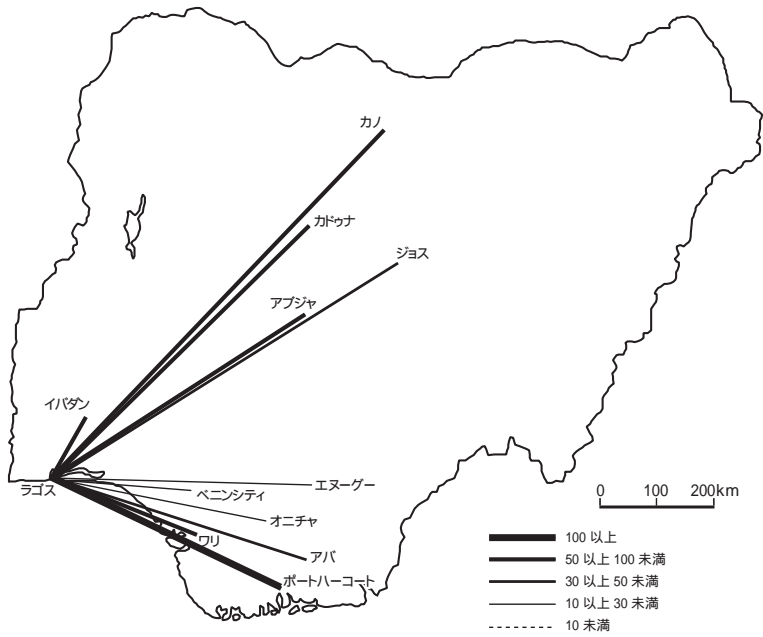


図3 ラゴスから主要都市への支所配置 (1995年)

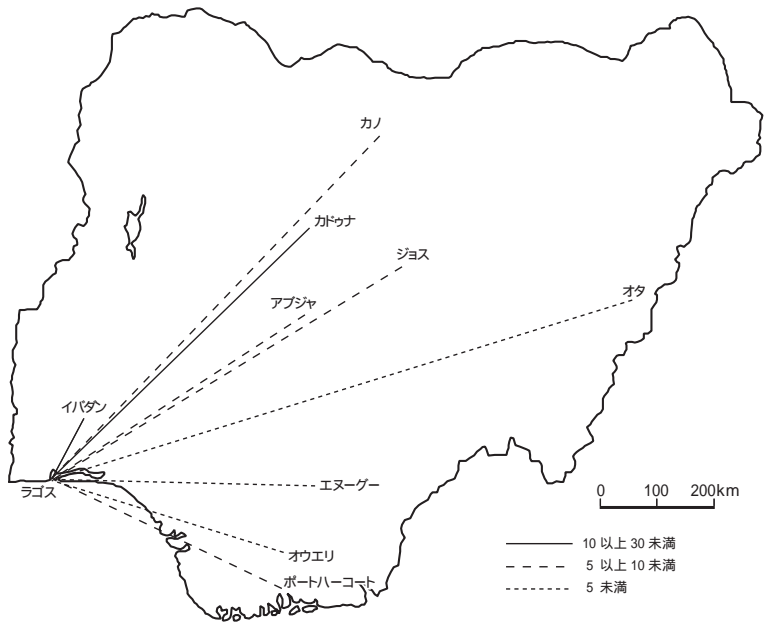


図4 主要都市からラゴスへの支所配置(1995年)

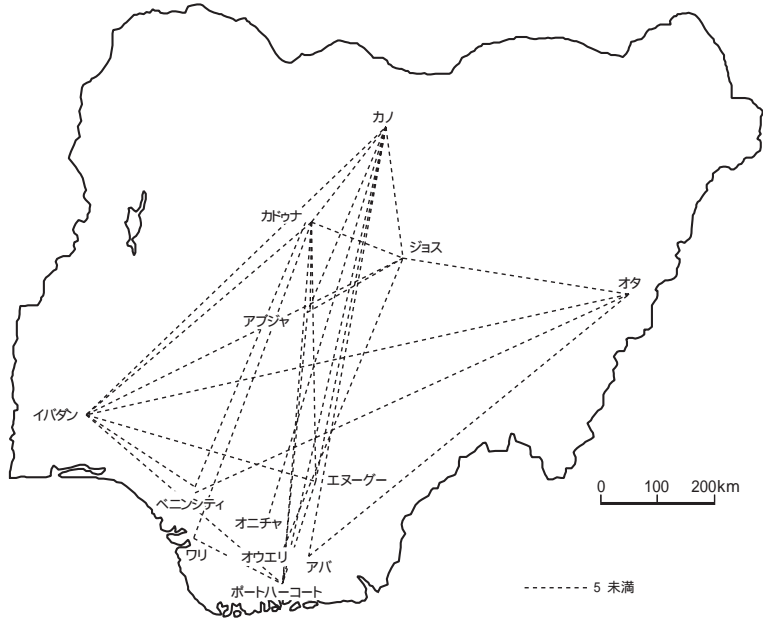


図5 ラゴスを除く主要都市間相互の支所配置(1995年)

表7-2 本社多数都市から支所数多数都市への支所配置の状況(2005年)

from 都市	本社数	to														
		ア ブ ジ ヤ	ラ ゴ ス	ポ ー ト ハ ー コ ー ト	カ ノ	カ ド ウ ナ	イ バ ダ ン	ワ リ	オ ニ チ ャ	エ ヌ ー グ ー	ジ ョ ス	ベ ニ ン シ テ	ア バ	マ リ	オ ウ エ リ	カ ラ バ ル
ラゴス	(390) (100.0)	168 (43.1)	106 (27.2)	150 (38.5)	95 (24.4)	66 (16.9)	58 (14.9)	60 (15.4)	37 (9.5)	30 (7.7)	33 (8.5)	29 (7.4)	34 (8.7)	26 (6.7)	21 (5.4)	22 (5.6)
アブジャ	(27) (100.0)	7 (25.9)	21 (77.8)	7 (25.9)	7 (25.9)	9 (33.3)	6 (22.2)	3 (11.1)	1	6 (22.2)	3 (11.1)	5 (18.5)		4 (14.8)		1
ポートハーコート	(13) (100.0)	5 (38.5)	10 (76.9)	2	2	2	1	4 (30.8)	2	2	2			1	1	1
イバダン	(13) (100.0)	7 (53.8)	10 (76.9)	2	2	3 (23.1)	1	1	1	2	2	5 (38.5)	1		3 (23.1)	1
カノ	(12) (100.0)	2	8 (66.7)	1												1
カドゥナ	(11) (100.0)	6 (54.5)	7 (63.6)	4 (36.4)	6 (54.5)	5 (45.5)	3 (27.3)	1	1	2	2			2		1

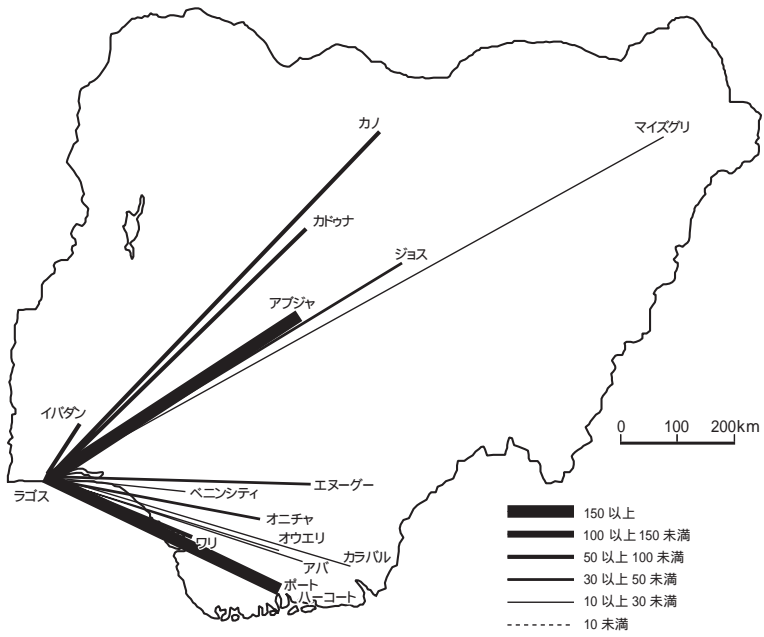


図6 ラゴスから主要都市への支所配置 (2005年)

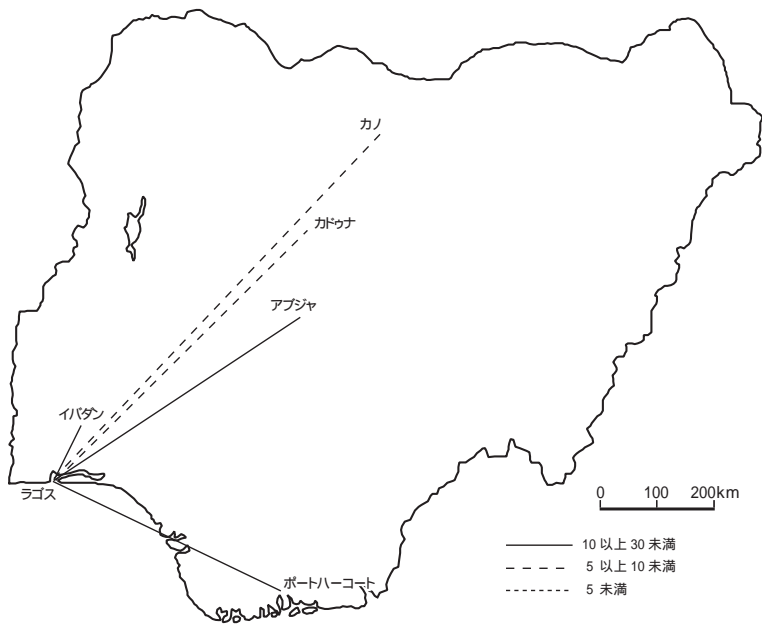


図7 主要都市からラゴスへの支所配置 (2005年)

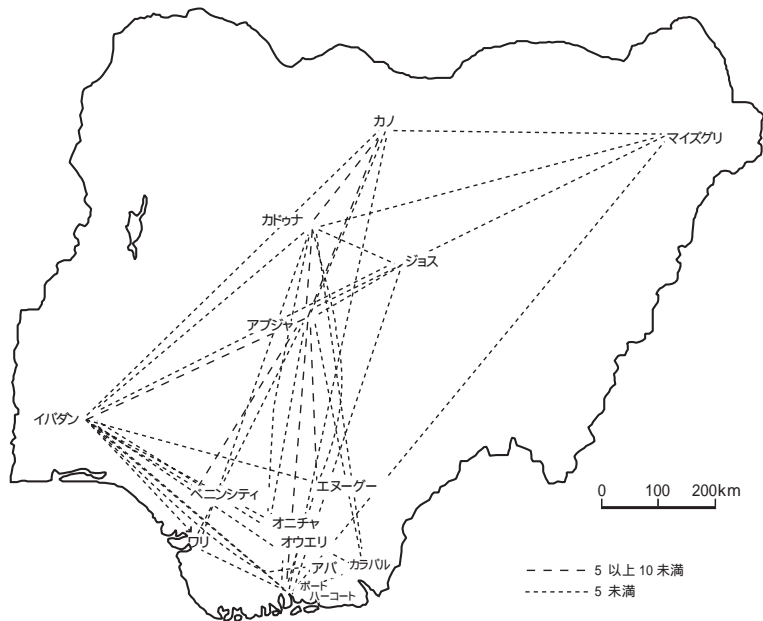


図8 ラゴスを除く主要都市間相互の支所配置（2005年）

5-2)。表7-2の支所配置は多くの業種の支所というわけではないが、「金融」「保険」「サービス」のいわば第3次産業の業種によっているというわけでもないのである。これら4都市の本社企業は、ポートハーコート ワリ（4支所）、イバダン ベニンシティ（5支所）、カドゥナ カノ（5支所）の支所配置を除くと相互の支所配置は極めて少ない。

ラゴス本社企業はアブジャに168支所、43.1%の高率で支所を配置している。ポートハーコートにも150支所（38.5%）、カノには95支所（24.4%）の配置である。アブジャ本社企業はラゴスに21支所、77.8%の支所配置である。

図6と図7は2005年のラゴス本社企業の主要都市への支所配置と主要都市本社企業のラゴスへの支所配置を示したものである。図8は2005年のラゴスを除く支所配置からみた都市間の結合を示したものである。業種によって支所配置には差異が

あるが、これらの図はそのことを捨象している。ラゴス企業の支所配置が主要都市に広く展開されていることと同時に、ラゴスを除いた、いわば横の都市間結合は弱いことがわかる。しかし一方、アブジャの本社数の増加により、1995年次に比べて少し変化がみられるようになった。

おわりに

以上、経済的中枢管理機能を指標として1995年と2005年のナイジェリアの主要都市と都市体系を分析した。重要な点を要約しておこう。

対象として取り上げた500社のうち、1995年では379社75.8%が、2000年では390社78.0%がラゴスに本社を置いていた。2005年では2番目に本社が多い都市はアブジャであり、ラゴスとの差は27社である。ラゴスとの差は大きい1995年に比べると大きな増加であった。

1995年では支所数においてもラゴスが最多都市

であった。第2位のポートハーコート支所数とも大きな差があった。しかし、2005年では支所数ではアブジャがラゴスを追いこし、最多である。ポートハーコートがこの2都市に続き上位グループを構成している。カノ、カドゥナ、イバダン、ワリの4都市が中位グループを構成している。アブジャの支所数の急増は注目に値する。アブジャは1991年以来首都となった。1995年では顕著ではなかった首都の重要性が大きくなったのかもしれない。

支所配置の状況から都市間結合をみると、各都市の支所数の多少はラゴス本社企業の支所数によっていること、ラゴス以外の都市に本社を置く企業の支所配置は、支所数最多都市のアブジャよりもラゴスの方が多いことを指摘できた。この機能

からみたナイジェリアの都市体系は圧倒的にラゴスを中心としたものであり、ラゴスを除く、いわば横の都市間結合は弱いものであることを指摘できた。しかし、アブジャの本社数の増加が1995年とはやや異なる都市体系の出現の原因になっていることにも注目しておく必要があると考えられる。

注

- 1) 日本経済新聞社刊の『会社年鑑』に用いられている分類が基準であるが、これには「鉄鋼諸機械」という分類はない。筆者がつくったものである。
- 2) 端信行(1976)「ラゴス」、藤岡謙二郎・谷岡武雄編『地図にみる世界の百万都市』朝倉書店、132～139。
端信行(1988)「西部アフリカ」『アフリカ』朝倉書店、242～253。